

月刊

みんな ねっと

4
2018

●特集●

配偶者・パートナーの立場からみえること（前田直）

●新連載 語りあおう、つながろう、町の中で、日常の中で
～オープンダイアログに学ぶ日々のなかで気づいたこと～第1回（三ツ井直子）

■続・事例からみる精神障害者の障害年金の実際（白石美佐子）「日常生活活動能力の判定について」

■知ることは生きること（青木聖久）連載28回《自らの人生の主人公としての家族の暮らし特集⑦》
40年間暮らしているこの地域で日々のドラマを楽しむ



- 知っておきたい精神保健福祉の動き 2
お知らせします みんなねっとの活動 3

特集 配偶者・パートナーの立場からみえること

杏林大学保健学部作業療法学科・精神に障害がある人の配偶者・パートナーの支援を考える会 前田直 6

語りあおう、つながろう、町の中で、日常の中で

～オープンダイアログに学ぶ日々の中で気づいたこと～ (第1回) 三ツ井直子 14

続・事例からみる精神障害者の障害年金の実際

《1》日常生活活動能力の判定及び程度について (白石美佐子) 18

多事彩々「家族もさまざま」(野村忠良) 22

街の診療所からのお便り【連載 131】(増本茂樹)

…町の精神科医は気軽な相談者になりたい… 24

知ることは生きること

(連載 28回) 40年間暮らしているこの地域で日々のドラマを楽しむ

《自らの人生の主人公としての家族の暮らし特集⑦》(青木聖久) 28

真澄こと葉のつれづれ日記 (第85回) 34

みんなのわ——読者のページ・地域の話 36

感想・意見・投稿を募集しています

メールでの原稿募集を始めました。

アドレス: minnanet.seishinhoken@outlook.jp

・「みんなのわ」コーナー(300～350字程度)

・「地域の話」コーナーへ皆様の原稿をお寄せ下さい!(1000～1200字程度)

知っておきたい 精神保健福祉の動き

■ユニバーサルデザイン2020 関係閣僚会議（第2回）

1月23日、首相官邸にてユニバーサルデザイン2020関係閣僚会議（第2回）が開催されました。審議内は、これまでの経緯と開催趣旨に始まり、加速化のための具体的な取り組みについてでした。これに合わせて当会を含む11の障害者団体からの意見表明がありました。

鈴木オリパラ担当大臣は「障害のある選手たちが圧倒的なパフォーマンスを見せる2020年東京パラリンピック大会は、共生社会の実現に向けて人々の

心の在り方を変える絶好の機会であります。この機会を契機として、全国のユニバーサルデザインの取組を推進していくため、関係府省庁と障害者団体の皆様等の熱心な議論を経て、昨年2月20日、本会議において、『ユニバーサルデザイン2020行動計画』を安倍総理、障害者団体の皆様の出席を得て決定いたしました。行動計画の決定からおおよそ1年が経過し、関係府省庁において、共生社会の実現に向けて様々な施策が積極的に進められておりますので、関係閣僚の皆様から取組をご報告いただきたいと思えます。また、本日は障害者団体の皆様にもお越しいただいておりますので、ご意見を賜りたいと

存じます。」として、関係閣僚からの取り組み状況の説明がなされました。

これを受け、みんなねつとから次の趣旨を表明しました。

「ちようど100年前に、精神病者監護法による私宅監置の悲惨さを実態調査した呉秀三の政府への報告書が提出されております。精神科医療は地域移行へ向け、大きく踏み出しています。この行動計画と共に私たちが心のバリアフリーについて理解を深め、差別・偏見のない社会を作ることを進めることが必要と考えています。しかし、昨年暮れの大阪寝屋川事件のような現代版私宅監置ともいえるべき状況も残念ながらございます。呉秀三の報告から100年、今

回の行動計画から100年、先を見越したまさにレガシーといえるような行動を私たち団体と共に、各障害者の正しい知識と体感、体面的な継続性のある取組を通じて、理解を深めていけるような行動計画推進に期待していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。」

*意見表明をした11団体Ⅱ全国精神保健福祉会連合会（みんなねっと）、日本盲人会連合、全国脊髄損傷者連合会、日本難病・疾病団体協議会、全国手をつなぐ育成会連合会、日本発達障害ネットワーク、全国重症心身障害児（者）を守る会、全日本ろうあ連盟、DPI日本会議、日本身体障害者団体連合会、日本パラスピアンズ協会

お知らせします みんなねっとの活動

■平成30年診療報酬改定にかかわる要望書の提出について

平成30年2月5日にACT全国ネットワークからの申し入れを受け、当会との共同で次の要望書を厚生労働大臣宛に提出いたしました。

要 望 書

日本の精神医療において、地域移行を待つ入院当事者が未だ多くいることは課題であります。が、医療中断や未受診のまま、地域で種々のサービスをうけられない、ひきこもりの状態にあり、高齢者の親などが抱え続け

ている当事者が多く存在することも大きな問題です。

重い精神障害を抱えながら地域で暮らす当事者には、薬物療法のほかに、生活支援、心理的支援、リハビリテーションなど、さまざまな支援が必要であり、また、通院や通所がむずかしいことから、精神科医、看護師、作業療法士などの医療職に加えて精神保健福祉士、あらたに設けられた公認心理師を含む多職種によるアウトリーチ・チームによる訪問支援が有用です。これは当事者・家族から非常に望まれているサービスでもありません。

ACT全国ネットワークでは、添付に示すように、現在「在宅時医学総合管理料」の枠組み

で支援している当事者の実態、支援の実態を緊急に調査いたしました。これをみますと、年余にわたる密度の濃い支援が、重い精神障害を持っていても地域で暮らすことを可能にし、多く再入院を抑止していることが見てとれます。

今後の、地域精神医療の充実を実現可能にするために、今回の診療報酬改定に際して、以下を要望させていただきます。

在宅療養支援診療所が、高齢者や難病患者を地域で支援しているように、精神科の訪問診療を積極的にする診療所が、地域社会でひきこもっていたり、今までの病院中心の医療では強制入院を余儀なくされてきたりし

た患者を地域で支援できるよう、あらたな「精神科在宅患者支援管理料」を一般科の「在宅時医学総合管理料」並みの高い評価としてください。

1. 重度の精神障害を持つ患者の状態は、年余にわたり一進一退で、地域精神医療の支援の目標は、世界的にも「病気を治す」というより、「症状や障害があっても地域で暮らせるように力量をつける」ということです。6か月で支援を軽減するのは非現実的であり、年余にわたり密度の濃い支援が出来るように評価基準を作成してください。

2. 症状が不安定な、重度の精神障害をもつ患者には、薬の処

方の相談や、精神療法的な関与のために、月に2回以上の精神科医の訪問診療が必要です。このことを「精神科在宅患者支援管理料」の中に盛り込んでください。

3. 医療中断や未受診のままひきこもり状態にある、重い精神障害をもつ者への支援は、患者や家族の同意を得ながら、訪問診療・訪問看護ですで行われています。これらの支援にも、入院歴のある患者同様のていねいな支援が必要です。「精神科在宅患者支援管理料」が、多くの困難を抱え、長期にひきこもりにある患者にも「重症患者」として対応できるよう設定してください。

4. すでに在宅医療をしている精神科診療所では、退院後1年以上再入院なく過ごされている患者を相当数診ております。これらのものの中には、密度の濃い支援を継続している者もおります。制度の移行にあたって、これらの支援が評価からめれることのないよう、「退院時GAF*」による評価ではなく「エントリー時のGAF」あるいは「現在のGAF」による評価で「重症度」を図るようにしてください。

*GAFとは、機能の全体的評定尺度のことで、精神保健従事者や医師が、成人の社会的・職業的・心理的機能を評価するのに用いられている1～100の数値スケールをいう
(Global Assessment of Functioning)

5. 重症患者の算定にあたっては、「保健所または精神保健福祉センター等が一堂に会し、月に1回以上のカンファレンスを開催する」とありますが、保健所等の機能にはかなりの地域格差が存在します。診療所等が開催を希望しても日程が合わないなどのことは通常のケア会議でもしばしばみられることです。現実的に可能な形態を再考願います。

■ベルギー視察派遣について

2月18～26日にかけて行われたベルギー視察に、みんなねつとを代表して、木全副理事長、事務局長小幡（個人として岡田理事）が参加いたしました。

ベルギーでは現在、精神医療改革が行われつつあります。世界で、日本に次ぐ精神病床数をもち、脱施設化と地域ケアの発展が遅れていたこと、遅れの要因に民間の精神科病院が多いことがあります。今回はこの点を重点に学ぶため、雄志による視察団が組まれました。

みんなねつととしても、今後の精神科医療改革に家族会の立場から、政策に意見を反映していくためにも、この視察に参加していくこととしました。内容は改めてお伝えいたします。

（以上、小幡）

配偶者・パートナーの 立場からみえること

杏林大学保健学部作業療法学科
精神に障害がある人の配偶者・パートナーの支援を考える会

前田 直

家族会の輪に入れない 配偶者

精神に疾病をかかえていても、恋愛や結婚、子育てをすることは、あたり前の時代になりつつあります。

平成15年の厚生労働省の調査によると、精神障害者のうち結婚をしている人の割合は34・6%でした。精神障害者は

392万人を数えるようになり、「配偶者」の立場にあたる人の数は100万人を超えていると推測されます。

当事者と生活を共にする家族には、様々な困難が生じていることが広く知られています。家族は家族会を結成し、互いに手を取り合いながら問題解決の道を探ってきました。しかし、これまでその輪の中に「配偶者」

の立場はなかなか入り込むことができていませんでした。みんなねっとでは、平成29年度に全国家族会調査を実施し、全国の会員から3126件の回答が寄せられました。しかし配偶者の立場からの回答は125件、全体の4%に過ぎません(表1)。

なぜ配偶者は家族会の輪の中に入ることができないのでしょうか。配偶者は家族の中で唯一「血のつながり」がありません。家族会に参加した配偶者は、次のような言葉をしばしばかけられます。「病気の症状で生活は大変でしょう。それなのに、どうして一緒に暮らしているのですか？」質問をした家族に、決して悪気があるわけではありま

せん。それでも、それを受けた配偶者は「暗に離婚を勧められている」と感じてしまうかもしれません。

実際に家族会の場で離婚を勧め

表1 みんなねっと家族会全国調査 配偶者の個人属性

	人数	比率(%)	平均	標準偏差
性別				
男性	81	64.8		
女性	44	35.2		
年齢				
男性			64.0	10.2
女性			61.6	10.7
家族の中に複数の当事者を抱えている人				
男性	19	23.4		
女性	13	29.5		

められたという配偶者の方もいます。「夫婦円満に暮らせるようになりたい」という小さな希望は、親の立場の方の「うちの子は結婚なんて絶対無理だから。そういう病気にかかってしまったのだから」という悲哀の中に埋没してしまいます。特別なことを言われなくても、「家族会はあるものの、当事者がお子さんのケースがほとんどなのであまり話がかみ合わない印象を受けた」という配偶者の人は少なくありません。

配偶者・パートナーの会の立ち上げ

配偶者の立場で集まれる場を作りたい。そんな声に応えるた

めに、平成28年6月に「精神に障害がある人の配偶者・パートナーの支援を考える会（以下、配偶者の会）」を立ち上げました。みんなねっととの共催で、同年9月より「配偶者の集い」を開催しています。平成30年1月までに計9回の集いが開催され、延べ158人の方が参加されました。

参加者の年齢は、30代〜4代が中心です。この世代の配偶者は、育児をしている人もたくさんいます。「小さな子どもを家において、家族会に参加できない」そんな声もあがります。そこで配偶者の会では、子連れの参加者のために保育ボランティアを用意しました。保育ボランティア

アを利用した子どもたちは、これまで以上に延べ40人に上ります。

「同じ立場の人たちで集まる」

「保育ボランティアを用意する」

環境を整えることで、配偶者の

会は既存の家族会と比べて参加

者の構成に変化がみられました。

た。みんなねつとの家族会調査

では、配偶者の立場は男性が6

割以上を占めていましたが、配

	人数	比率(%)
性別		
男性	58	36.7
女性	100	63.3
年齢		
10代～20代	4	2.5
30代	34	21.5
40代	54	34.2
50代	23	14.6
60代以上	24	15.2
未回答	19	12.0
当事者の疾患名(複数回答あり)		
統合失調症	50	31.6
双極性障害	64	40.5
うつ病	21	13.3
その他・不明	36	22.8

偶者の会では参加者の6割強が女性です(表2)。

精神的に追い詰められている配偶者

みんなねつとの調査では、家族の精神的健康度を調べるためにK6日本語版という尺度を使用しました。過去30日の間に「神経過敏に感じましたか」など6

つの質問項目を、全くない、少しだけ、ときどき、たいてい、いつもの5つの選択肢から選んでもらいます。選択肢に応じて点数がつけられ、合計点数が5点以上

であれば、うつ病や不安障害の可能性が高いと言われています。この調査で、男性配偶者の60.5%、女性配偶者の70.7%が5

表3 K6平均点と合計得点5点以上の人の割合

立場	平均	標準偏差	5点以上の人の割合*
親	6.8	5.3	60.4%
きょうだい	6.1	6.0	55.3%
夫	7.1	5.7	60.5%
妻	8.7	6.4	70.7%
子ども	7.2	6.0	63.9%

*K6合計得点が5点以上は、うつ病や不安障害の可能性が高い。

点以上の得点を示していました。特に女性配偶者は「親」や「兄弟姉妹」、「子ども」など他の立場に比べて、最も高い割合を示していました(表3)。

配偶者の集いでも、「自分も精神的にまいってしまい2度うつ病を発症し、その後転職した」「頑張っても頑張ってもむくわれない」「今後は不安だらけ。毎日気力のみでがんばってケアをしている」といった内容が話し合われています。

ダブルケア、トリプルケアに悩む配偶者

みんなねっと家族調査では、回答者からみて精神障害のある人はどの続柄にあたるかを調べ

ました。精神障害のある方が複数いる場合、該当する全てを回答してもらいました。配偶者の立場125名中、家族の中に複数の精神障害がある人は31名に上りました。そのうち、「子ども」に障害があるという人が最も多く、26名でした。配偶者のケアに加えて、子育て、さらには発病した子どもの世話など、ダブルケア・トリプルケアに悩む配偶者の姿が浮かび上がりました。配偶者の集いでも、「娘も病気になる、私は4年くらい東京から一步も出ていない。旅もしていないので、自分を上手くいかせる、ストレスから少しでも離れる工夫をしている」と話す女性がいました。

病状が悪化したときの状態と配偶者が経験する暴力

本人の病状が悪化してしまつたとき、夫、妻ともに多くの人が「意思の疎通がうまくとれなくなる」「家族に対する暴言や暴力」「飲食をとらない、眠らない」「部屋に閉じこもる」などの状況を経験しています(表4)。加えて、夫の立場の40・3%、妻の立場の31・0%が(本人が)自殺を試みようとする」ことを経験していることは、驚くべき実態です。

多くの配偶者が、何かしらの暴力を経験しています(表5)。「暴力の経験がない」と答えた配偶者は、夫で22・4%、妻

で26・3%に過ぎません。配偶者の間で行われる暴力は、いわゆる「DV (Domestic Violence)」と呼ばれています。一般的なDVでは被害者は女性であることが多いですが、精神障害者の場合はその限りではなく、暴力の発生頻度に男女差はありません。

**相談先がなく
孤立する配偶者**

愛する人が病気になるたとき、配偶者が最初に越えなければ

表4 みんなねっと家族会全国調査 病態が悪化したときの状態

	夫		妻	
	人数	比率(%)	人数	比率(%)
意思疎通がうまくできなくなった	44	57.1	24	57.1
部屋に閉じこもるようになった	31	40.3	13	31.0
飲食をとらない、眠らないといったことがみられた	34	44.2	18	42.9
普段はしないような恥ずかしい言動がみられるようになった	14	18.2	8	19.0
自殺を試みようとした	31	40.3	13	31.0
家族に暴言を言ったり、暴力がみられるようになった	40	51.9	22	52.4
他人に暴言を言ったり、暴力がみられるようになった	7	9.1	12	28.6
常識はずれの浪費があった	18	23.4	14	33.3
性的な逸脱行為があった	4	5.2	4	9.5
その他	11	14.3	8	19.0
これらのような状態になったことはない	3	3.9	6	14.3

表6 みんなねっと家族会全国調査 暴言や暴力を経験した人の人数と比率

	夫		妻	
	人数	比率(%)	人数	比率(%)
身体的暴力 (殴る、蹴る、物を投げつけるといった直接的なものなど)	26	38.8	12	31.6
激しい暴言 (身体に対する直接的な暴力が現実起こりそうなものなど)	23	34.3	17	44.7
言葉による精神的暴力 (ばかにした言葉や汚い言葉を言う、欠点をあげつらう、否定的なことを言う、どなる、皮肉や嫌味をいうなど)	28	41.8	21	55.3
行動による精神的暴力 (携帯電話をチェックしたりアドレスや電話番号を消したりするなど)	6	9.0	7	18.4
その他の精神的暴力 (相手が『自分は駄目な人間だ』と思うように仕向ける、無視するなど)	9	13.4	7	18.4
直接的な経済的暴力 (金銭的な被害を与えるなど)	5	7.5	10	26.3
間接的な経済的暴力 (不必要な買い物や携帯電話の代金などの支払いを強要するなど)	10	14.9	6	15.8
性的暴力 (性的行為を強要する、避妊に協力しない、中絶を強要するなど)	4	6.0	3	7.9
社会的暴力 (人前で侮辱するような言動をするなど)	4	6.0	4	10.5
その他	4	6.0	4	10.5
これらのような状態になったことはない	15	22.4	10	26.3

語りあおう、
つながろう、

町の中で、 日常の中で

訪問看護ステーション KAZOC かそっく 看護師
三ツ井直子

オープンダイアログに学ぶ
日々のなかで気づいたこと

第一回

一緒に写っているのは、フィンランドのトルニオで、オープンダイアログのトレーニングコースの講師をやっている精神科医の KariValtanen さん



ありのままの自分でいられることを大切に

朝、急な階段を駆け上がると、仲間はすでに出勤し、それぞれの仕事を開始していて、決まって一番最後に登場する私に「おはよう」と声を掛けてくれる。そんな一日の始まりに、毎朝私は安心する。私は、朝が苦手だ。子供のころはよく遅刻をした。時間を逆算して行動することが苦手だった。それは、今も変わらずで、何分あれば、間に合うなということ布団の中で毎日考えてしまう。毎日のルーチンは変わるわけではないのに、性懲りもなく数分間の眠りの時間をひねり出そうともがくのだ。

続

事例からみる 精神障害者の 障害年金の実際

白石社会保険労務士事務所
社会保険労務士

しらいし みさこ
白石 美佐子

《1》日常生活活動能力の判定及び程度について

1年間、障害年金についての連載をしてきました。

その中で、診断書の裏面、日常生活活動能力の判定と程度についての重要性を何度も記載してきました。

ご紹介の診断書は同一人物です。この方は、障害年金受給後に都合により県外へ転居されました。転居先の自宅から一番近くの病院へ通院をしていたそうです。更新の月がきたので、診断書の作成をお願いし、すぐに診断書を作成していただけたとのことです。

以前に私が障害年金請求の手続きをした方でしたので、更新の診断書を提出する前に不安になったのか、私にご相談の連絡

が入りました。診断書(診断書1)をみた瞬間、2級の障害年金は継続ができないでしょうと回答をしたのを覚えていきます。

「障害年金2級が継続されなければ、生活は破綻します。助けて下さい」と何度も連絡が入りました。彼は、その後、すぐに転院をしました。

転院後の医師からは、「まだまだ働ける状態にないので、時間がかかるかも知れませんが、しっかりと治療をしていきましよう」と言われたそうです。

障害年金の話の説明をした時に「障害年金をご希望される方は最近多いです。嘘は書けないですが、今の状態を書くことは可能です」と説明をされ、診断



このコーナーは、編集長(野村忠良)のコラムを自由なテーマで連載いたします。題して「多事彩々」。乞うご期待ください！

家族もやまやま

振り返ってみますと、筆者は45年間も家族会に入れていただいています。嘘！と思われるでしょうが、精神障害がある方の「親」ではなく、「子ども」だからです。今年で75歳になります。

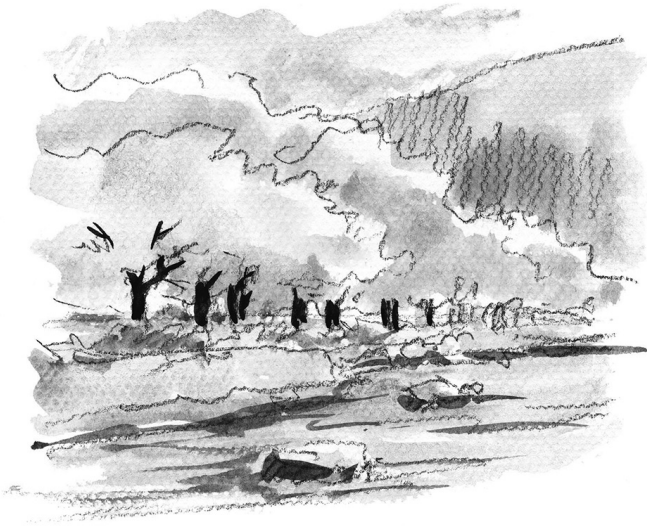
家族会といえば、普通は「親」の集まりなのですが、身内に精神障害が発症すると、その影響を受けるのは親ばかりではありません。「兄弟姉妹」「配偶者」など、様々です。

筆者は、父親の勧めで入会しました。父親はすべてを投げ打って、精神障害になった母と私たち子どもを守ってくれていて、家族会に入り、社会を改善しようとしているのを知っていたからです。

昔から、家族会に入るのには主に母親や父親で、父のように配偶者の立場の人はなかなかいません。子どもの立場の人も少ないでしょう。

筆者は兄弟姉妹の集まりに、何度も出席させてもらいました。それぞれの方が本当に深い問題を抱えていて、中には絶望的な将来しか見えない方や、仕事を辞めざるをえない方もいらして、深刻な状況でした。

子どもの立場の人にも、他の立場とは違ったたいへんさがあります。親



の発病がまだ成長する前か途中であったため、親の愛情を受けられず、自尊心や自信、安心感が正常に育ちにくかったという辛さです。これは、生存の核心に係る重大なハンディです。

伴侶の立場にも、筆者は妻ががんで亡くなるまで属していました。かなり多くの伴侶の方は、離婚の道を選ばざるをえなくなることもあります。

こうした「親」以外のさまざまな家族の立場を、これから特集として、「みんなねっと」誌で順次紹介していくことになっていきます。

どうぞ御一読くださいますようお願いいたします。

(野村忠良)

街の
診療所から
のお便り

…町の精神科医は
気軽な相談者になりたい…



連載
131回

ましもと しげき
増本 茂樹
増本クリニック院長

〈一人で受診〉

インターネットで初診申し込みをされたCさんは27歳の保育士（女性）です。メールの症状欄には「最近、食欲不振。気分が変わりやすくて、イライラする」と書かれています。一人で診察室に入ってから来た時の様子では、どこか落ち着かず、何かに迷っておられるように見えますが、表情や歩き方は普通に

しっかりしておられます。精神病や重症のうつ病ではないようです。神経症などの心理的な不都合でしょうか？ でも、椅子に座られた後は視線を下に向け、症状の説明も小さな声で、なかなかうまく話せません。

〈困ってどうしたらいい？〉

今日はどんなことを困っておられますか？

「腹を立てたり、泣きそうに

なったり、気分が落ち着きません。今日は食欲がなく、食べる気がしません」

予診票には「最近」と書いてありますが、以前とは違う調子なんです。いつ頃からそういう感じですか？

「半年くらい前から気分の上がり下がりが激しいです」

気分の波がある病気では躁うつ病がありますが、この言い方では1日の内とか、数日間の

知ることは生きること

連載28回

40年間暮らしているこの地域で
日々のドラマを楽しむ
(自らの人生の主人公としての家族の暮らし特集⑦)

日本福祉大学
みんなねっと理事 青木聖久

今回ご紹介をするのは、織田
いらっしやる方です。

姫乃さん(仮名・60歳代女性)

です。織田さんとは、家族会の
研究会で一緒にすることがきつ
かけとなり、出会いました。そ
して、つい最近、ご自宅で昼食
をごちそうしていただいたので
す。お会いして、まだ半年余り
ですが、ご自身の考えや行動が、
大いなるメッセージ性を持って

今の地域に家を建てて

40年間暮らす

織田さんは高校を卒業して、
2年ほど働かれた後に結婚され
ました。配偶者の明さん(仮名)
は、朝早くから夜遅くまで仕事
をし、海外出張も多かったよう
です。そのことから、家のこと

は結婚して以来、ずっと織田さ
んが切り盛りされています。ま
た、2人ずつ娘さんと息子さん
がおられます。そのお子さんた
ちには、節句や七夕等、日本の
伝統行事を45年間欠かさず続け
てこられました。

そして、結婚して5年程経つ
た時、今の地域に家を建てて移
り住み、40年間暮らし続けてお
られます。そこは、街全体が比
較的平地で、駅が近く、公共施
設や医療機関等にも、自転車さ
えあれば難なく行けるぐらい、
便利なところです。その地域の
幹線道路から少し入ったところ
に、10軒程の家が立ち並んでお
り、その1軒が織田さんの自宅
となります。

★ 真澄こと葉の ★

第85回

つれづれ日記★

一つは自分の中
から生まれる
病気のストレス



ストレスには
色々あるけど



一つは人と関わる中で(コ
ミュニケーションの中で)
生まれるストレス

読者のページ



「みんなのわ」は、読者のみなさんからのお便りや投稿を中心に紹介するコーナーです。

「みんなねっと」の感想

◆愛知県 もん 家族（60代）

毎月、青木先生の「知ることは生きること」を楽しみに読んでいます。

とても励まされることが書かれてあり、登場人物にとっても親近感を持ちます。当事者の親としてどのように子供に向きあってきたか、家族しかわからないつらさが悲しみが伝わってくるからです。

日常生活

◆兵庫県 ナツチャン 本人（60代）

先日みんなねっと1月号にかけている方が私の知る会長さんということがわかりあわてて再読しました。あらためてその再読しました。あらためてその再読しました。あらためてその再読しました。あらためてその再読しました。あらためてその再読しました。あらためてその再読しました。あらためてその再読しました。あらためてその再読しました。あらためてその再読しました。

私は25歳の時統合失調症になり、なおらないと言われきちんと薬のみ、働けるようになり何度か小さな再発はありました。30歳のおわりに結婚でき2人の子供を育てました。1人は公務員、1人は5年半続き、何とか私も午前中だけパートして、家事もこなしています。もちろん薬ものんでいます。

◆愛知県 宮本和子 家族（70代）

お医者さんの言うことをきくと聞き、きちんと薬をのめば、病气と上手につきあえます。主人が、病气に理解があつてやさしかったこともありすが、今も小さな悩みはありますが、夫婦で話し合い何とか生活を送っています。今は60代前半なので大きな病気にならぬよう気をつけてます。

娘が2007年9月に自殺未遂をくり返して、うつ病で入院してから10年。いつの間にか統合失調症として診断され、2年続けて入院をくり返したが、NPO法人「なかよし」に通うようになつて、友達も出来、恋人も出来、結婚。しかし1年半の結婚生活に終止符をうち、現在夫が1年前に亡くなつて娘と二

【再掲】平成30年4月号からの編集方針について(検討結果のご報告)
月刊みんなねっと編集委員会より

《編集理念の刷新について》

昨年の11月13日に開かれた本誌の編集会議では、平成29年度事業計画に基づいて平成30年4月号からの本誌の編集のあり方についての検討がなされました。

◆編集委員会の構成員

現在の編集委員会は、谷安正氏(編集業者)、飯塚壽美理事、小幡事務局長をはじめとするみんなねっと事務局の職員、それに編集長の役をいただいている理事野村忠良で構成されています。

いまのところ、このメンバーで月々の編集内容を決めていますが、今後、様々な視点を取り入れるために、陣容を充実させてゆく予定です。

◆月刊誌みんなねっとの現状

①家族会の機関誌として

これまでの月刊誌は、家族会につながった統合失調やうつ病などの重い精神疾患をもつ当事者の方々を支えているご家族を主な対象にして、精神保健医療福祉の情報を伝えたり、ご家族や当事者の方々が置かれている実態を手記にして掲載したりという編集をしてきました。家族会内部の機関誌という存在でした。

②発行部数の減少

近年、問題となってきたのは本誌の発行部数の減少です。「みんなねっと」誌は現在1万2千部あまりで、この部数は月刊誌の発行をはじめ、みんなねっとの安定した運営を維持する生命線になっています。

減少傾向には、全国の家族会の衰退傾向が大きく影響しています。高齢化した役員が引退し、新しい家族の入会が少ない問題にもつながっているのです。

③基盤としての家族会の衰退

家族会は、50年くらい前に、重い統合失調症などの精神障害を有する方々の家族が、精神科病院や地域で集まって立ち上げ発展してきましたが、現在では社会の様子が当時とはすっかり変わっています。家族会に入らなくてもインターネットの普及で知識が自宅で簡単に得られるようになり、地域に精神科クリニックも増え、入院する患者数も日数も少なくなりました。

そのために、孤独感、不安感、家族の精神症状などのストレスに耐えられない人や、診療のあり方等に疑問があるのに、どこに相談しても納得がいかなくて、ようやく家族会にたどり着いて安堵した人たち、しかも地域の精神障害者の家族会という世間の偏見がとる団体であっても入会を必要とする人たちがいらっしやいます。よって、家

族は大切な存在であります。

一方で、家族会を支えてきた多くの古参の会員たちは、高齢となり動けなくなって毎年抜けてゆきます。その結果、各地で家族会の解散が見られるようになりました。

このことが、いま、月刊誌の購読者数に大きく影響しています。高齢のために読めなくなったという理由での購読中止の連絡が、たくさん来ています。

◆新しい月刊誌のあり方

みんなねっとでは、この時節を捉えて月刊誌の役割の転向を図ることが大切と考え編集委員会を中心に検討した結果、次のような方向が提案され、取り組むことになりました。

①一般市民の日常の精神保健・福祉状況のなかに暮らす、一市民の立場にも立つ視点で編集するように努めます。そして、精神障害の当事者の家族の実態も良く知っている実体験のある市民としての立場から、②精神保健・福祉の面で、すべての市民にとってのより良い社会の実現に向けて有益な情報を提供します。

例えば新年度では、
*家族とひとくりにせず、多様な立場の状況を伝える

*統合失調症圏のみならず、双極性や発達障害など広義の精神障害にもスポットを当てていく

*就労などの働くことについての現状などにも目をむけます

*声を発することが難しい児童生徒等の教育について考える

◆リニューアルした月刊みんなねっと誌編集委員会の今後の使命

編集委員会では、今後の使命を次のように考えています。

①社会の「偏見の除去」をはじめとする諸課題の改善を進めるために、一般市民の立場に立つ

②社会の精神保健・福祉の課題を、一般市民自身の課題として理解しやすく伝える

③読者と賛助会員を一般市民の精神保健・福祉に関心のある人々の間にも拡大する

④この月刊誌を、日本の社会の精神保健・福祉面での改革のために欠くことのできない重要な情報源の一つとし、改革の意欲と関心のある人々に愛される刊行物となるように努める

* * *

月刊みんなねっと誌が一人でも多くの市民に届けられ、より良い社会の実現に貢献できますよう、ご購読と読者の拡大にご協力くださいますよう、お願いいたします。

「みんなねっと」の
ホームページをご覧ください

☆メルマガ会員募集中(無料)☆

「みんなねっと」で検索!
<http://seishinhoken.jp/>



LINE 公式アカウント【@ minnanet】



公式ツイッター【@ minnanet】



■友だち追加の方法

- ①QRコードから
LINE アプリを起動し
「その他」→
「友だち追加」→
「QRコード」からQRコードを
読み取り「追加」をタップ
- ②ID 検索から
LINE アプリを起動し
「公式アカウント」→ 虫眼鏡マーカー
→ みんなねっと と検索し「追加」を
タップ



■フォローの方法

- Twitter ページより
「@minnanet」で検索
→プロフィールページへ行き、
プロフィール画像のすぐ下に
ある「フォローする」をタップ

ご登録!
お待ちしております

「みんなねっと」電話相談のご案内

TEL : 03-6907-9212 受付時間：水曜日 10時～15時

※祝日と重なった場合はお休みです。※お昼(12時～13時)はお休みをいただきます。

みんなねっとのホームページではメルマガジンを発行しています(無料)。当会の活動だけでなく、各都道府県連の情報なども随時お知らせするメルマガになっています。ぜひ、ご登録ください。詳しくはホームページをご覧ください(「みんなねっと」で検索ください)。